

令和3年5月20日

北海道教育大学釧路校
副学長 玉井康之

令和2年度活動状況点検評価に関する評価について

以下令和2年度の教育委員会活動状況に関するコメントをしたい。

近年の子供の生きる力の基礎としての学力保障については、基礎的な部分から底上げしようとしている点は重要である。特に教師にとって授業指導がしにくい問題は、学力が低いこと自体よりも、格差がある場合であり、学力困難層の基礎学力を含めた底上げをしようとしている点がうかがえる。またその場合にも「教育コラボレーション構想」として釧路教育大学の学生も支援の条件として活用しようとしている点は重要である。学生に指導力があるわけではないが、あらゆる条件をプラスに生かしてできる所から有効に活かせる教育活動を総合的に進めようとしている政策姿勢が重要である。

ふるさと教育は、白糠町が他市町村に比して早くから取り組んだ活動であるが、単に給食素材を地元から採用しているという経済循環の問題だけではなく、町の産業の特徴と誇りを伸ばすように子供にその意義を働きかけている点が重要である。学校や地域を誇りに思うようになったときに、子供はあらゆる活動に前向きに取り組むことができるからである。

庶路学園の義務教育学校の実践は、小中一体的なカリキュラムづくりや学校運営で成功しており、内外に大きな影響を与えた。そのような先駆的な実践は釧路附属小中学校を義務教育学校に転換していく契機にもなっている。今後は庶路学園と附属義務教育学校が連携した義務教育学校カリキュラムの開発が期待される。

社会教育においても、「まちづくり出前講座」を積極的に進めており、ボランティア活動の促進と合わせて、地域創生と学習活動が結びついた活動を展開できている。またまちづくりの活動は、それ自体が青少年健全育成活動と潜在的に結びついており、青少年の問題行動を抑える条件になっていると言える。社会スポーツに関しても、積極的に町民の運動と健康づくりを進めており、これらが高齢化社会における町民の活動力ともなっている。

郷土文化・伝統的な活動などは、開拓時代以来の歴史と知恵を学ぶ上でも生活の知恵を意識させるものとなっている。またアイヌ文化は、近年の先住民族との共生社会を実現する上で重要な教育的役割を担っている。このアイヌ文化の保存活動や後継者育成も積極的に行っており、学校への出前講座なども推進している。これらは近年の重要な課題ともなっている先住民族の尊厳を守る共生活動として重要である。

このような様々な学校教育活動・社会教育活動をトータルに進めている白糠町の教育行政は、生きる力を育成する総合的な資質・能力を育む行政であると言える。これらを重要な柱として掲げた白糠町の教育行政は評価できると言える。